



研究者名※	岡本 吉生	学位※	カウンセリング修士(筑波大学)
所属※	家政 学部 児童 学科	職名※	教授
連絡先	y-okamoto@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/read0062353		
研究分野※	臨床心理学 家族療法 犯罪心理学		
研究キーワード※	非行臨床、情状鑑定、家族療法		
共同研究・競争的資金等の研究課題	刑事事件の情状鑑定における多職種協働チームの将来的展望 裁判員裁判に寄与する情状鑑定の在り方と判決前調査制度の導入可能性に関する研究 裁判員制度における情状鑑定の意義と方法に関する実証的研究 非行臨床における精神障害に関わるリスク・アセスメントと処遇に関する実証的研究 非行臨床における発達障害・精神障害に関わるリスク・マネジメントの実証的研究		
社会貢献・産学官連携活動等	法務省東京保護観察所における特別処遇班スーパーバイザー 法務省東京少年鑑別所視察委員(2015年6月～2018年3月) 裁判所および弁護士依頼による情状鑑定の実施 科学警察研究所研究顧問(2022年4月～)		
受賞歴	特記事項なし		

研究領域	司法犯罪心理学 家族療法	(SDGs)	
研究テーマ※	夫婦・家族関係の葛藤と問題行動		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>夫婦や家族の葛藤が、子どもの虐待、夫婦間暴力、非行・犯罪など様々な社会問題の根源となっており、総合的な観点から問題の把握や支援、施策を考えなければならないという観点から、それらの関連性について明らかにすること</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>夫婦や家族の葛藤は、臨床心理学、社会学、精神医学などの学際的なアプローチが必要であり、専門領域間の連携や検討が必要である。特に、様々な知見を鑑定など司法領域での実践や応用に活用している。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <p>実践活動から得られた知見の科学的手法による分析</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> <li>刑事裁判における人間行動科学の寄与: 情状鑑定と判決前調査(編著)、日本評論社、2018年</li> <li>アタッチメントに基づく家族療法、家族療法研究, 37,3,11-18, 2020年</li> </ul>		
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>司法・行政機関との共同研究</li> <li>犯罪者やその家族に対する支援と共同研究</li> </ul>		